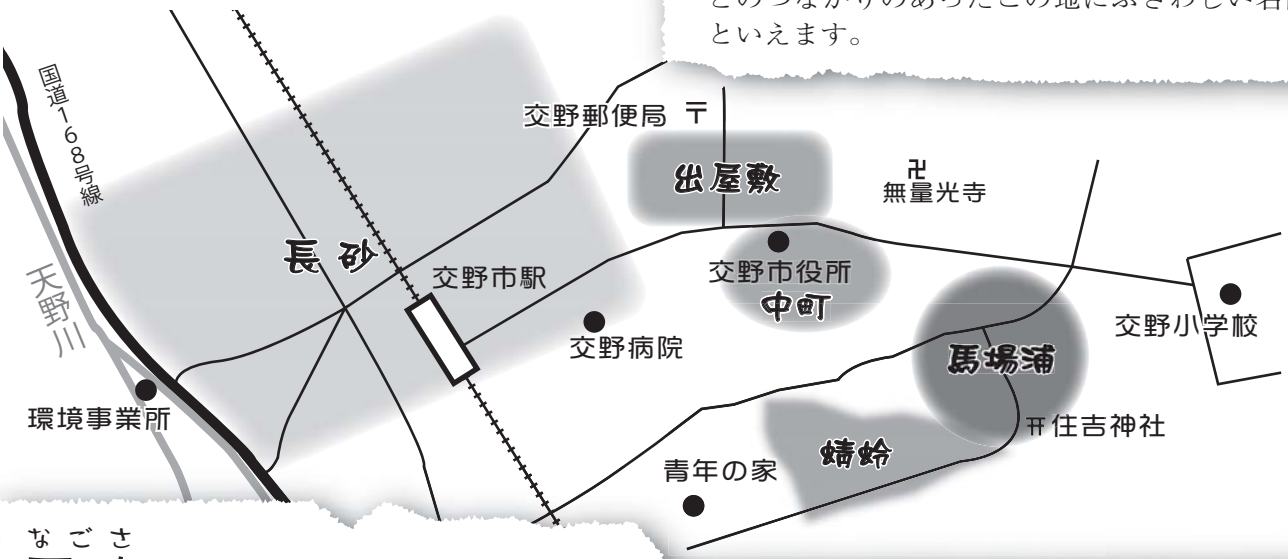
まちの名に歴史あり

問い合わせ　文化財事業団（TEL 893・8111）

～私 部～



蜻蛉（とんぼ）

「かげろう」ではなく〝とんぼ〟と読む珍しい地名です。トンボには「飛ぶ穂」を語源とする説があり、別名を「秋津（あきつ）」といい、秋の精霊で五穀豊穣のシンボルとされています。また「日本書紀」に「そらみつ倭の国を　蜻蛉嶋（あきづしま）といふ」とあり、蜻蛉には大和地方をさす言葉としての意味もあったと考えられます。

私部は敏達天皇の皇后領であったことから、この地で収穫された米が飛鳥の皇后に差し出されたことが想像されます。米作地帯であり、大和とのつながりのあったこの地にふさわしい名前といえます。

長砂（なごさ）

「長い砂」が縮んで「長砂」と呼ばれるようになりました。

現在は、大きなマンションや商業施設の建ち並ぶ交野の中心地ですが、昭和40年代までは大きな米作地帯でした。

私部で一番低い土地で、天野川や免除川が氾濫した時に流れてきた砂や粘土が堆積した泥田であったため、村人たちは田植えや稲刈りに苦労していました。また、この付近は天野川に堆積した土砂で川底が周囲の土地よりも高かったので、長雨が続くと水が川に流れずに、一面が泥の海となり、堤防が決壊し洪水になることもしばしばでした。

天野川堤防から梅が枝団地建設前の風景（昭和42年）

中町・出屋敷・馬場浦（なかっちょ・でやしき・ばうら）

交野市駅から交野小学校まで、現在も長い一本道が続いています。この一本道を中心にして両側の地域が中町、出屋敷、馬場浦と呼ばれていました。

先月号で紹介した無量光寺周辺の札辻・市場が江戸時代に栄え、中町や出屋敷はこれらの地域が発展してできたと言われています。地形がちょうど私部の中心にあたることから中町、私部城の武士たちが私部城周辺に屋敷を構えたことから出屋敷、軍馬の訓練場があったことから馬場浦と、それぞれ名付けられたのかもしれません。

特に馬場浦は、札辻・市場の集落の外側にあたり、防御用の出城のような役割を果たし、竜王山あたりから攻めてくる敵兵を防御する重要地点でもありました。

これらの3つの地域は、私部の中心地域であった城や札辻、市場といった地域と密接に関連し、形成されていった地域と言えます。